鹿児島県有機農業協会【koaa】会員向け機関誌　March 31, 2023 vol.96

koaa press

こあぷれす

NPO法人鹿児島県有機農業協会

〒890-0046　鹿児島県鹿児島市西田2-11-8 明日ビル2F
TEL 099-258-3374　FAX 099-258-2204
HP▶http://www.koaa.or.jp　E-mail▶koaa@koaa.or.jp

退任のあいさつ　副理事長　井上 清視

認証事業者の皆様、認証業務部では、現在30名余の検査員で、年間370件程度の認証に係る検査を実施して、認証を行っています。

さて、一昨年の5月に国の政策指針として「みどりの食料システム戦略」が発表されました。この中では化学的に合成された肥料や農薬を使わない農業面積を2050年までに全農地の25%にあたる100万haまで拡大する目標が掲げられました。また、本県においても2031年までに有機面積を現在の2倍に相当する2000haまでに拡大するという計画を策定しています。このように地球の温暖化等を踏まえて、有機農業に対する追い風が吹いて来ています。

そこで、当協会としても、国の施策に呼応するために、輸出促進の一環として昨年の10月から「酒類の有機ＪＡＳ認証」や同等性の仕組みを利用した「外国格付の表示に係る認証」を開始したところです。併せて「データベースの改良」を図るとともに「文書類の電子データ化」を進めつつ、対面調査のみならずオンラインによるリモート調査も導入したところです。また、認証事業者の方々に3年毎に更新していただいている資材証明書について、現在の資材評価協議会の資材証明と同様に本会独自の資材証明のリスト化を今回初めて、このコアプレスに公表していますのでご活用下さい。今後も随時公表して参りますのでよろしくお願いします。

認証業務部では、上記の他に新しく農産物や加工食品及び飼料・畜産物の有機認証を取得される方々のために有機JAS講習会を対面とオンラインの両方で定期的に実施していますので、認証事業者の皆様の周りに新規取得されたい方がおられましたら是非ご紹介下さい。よろしくお願いします。

ところで、私は、もともと有機農業とは無縁の畜産関係の仕事をしていました。私が畜産関係に携わっていた時に、元職場の上司であった上入来志良氏から、畜産関係の仕事が一段落したら有機農業関係に協力するよう言われていました。上入来氏の逝去後しばらくして、たまたま、元職場のＯＢ会で、当時、当協会の理事長であった富岡忠勝氏と判定委員長をされていた牧瑞子氏と話す機会があり、早速、当協会の有機JAS講習会を平成23年3月に受講することとなりました。以来、当協会の認証に関する業務に携わって来たところです。

現在、食の安心安全性は勿論のこと、環境面や社会面からも、又、ロシアのウクライナ侵攻を契機とした世界情勢や食料自給率向上の面からも、有機農業の推進は、大変重要で必要なものとなっています。

来月の定期総会をもって副理事長兼認証業務部常務理事を退任することとなり、認証事業者の方々をはじめ、有機農業に携わる多くの方々に大変お世話になりましたことを感謝しますとともに、有機農業の今後ますますの発展を祈念して、お礼のあいさつとさせて頂きます。誠にありがとうございました。

CONTENTS

P1　・退任のあいさつ　井上 清視
P2　・有機農業ステップアップセミナー報告、オーガニックフェスタ開催予告
P3　・金子美登氏・大和田世志人氏を偲ぶ会報告
P4　・第2回オーガニック学校給食フォーラム報告
P5　・認証事業者の紹介　㈲塗木製茶工場
P6～8　・認証業務部よりお知らせ
P8　・協会からお知らせ

第5回有機農業ステップアップセミナー　開催報告

3月18日開催しました！

第5回目のステップアップセミナーは「緑肥の活用考えてみませんか？」をテーマに開催しました。
雪印種苗(株)の井上隆夫氏と久木田農園の久木田大和氏の講師2名を迎えて15名が参加。ベテラン農家さんから小規模で作られている方まで幅広く参加していただきました。また、ディスカッションの時間を設け、他の参加者と交流することで、疑問点などを共有できることでより深い知識へとつなぎ、今後のモチベーションアップにもなったようです。今後もステップアップを後押し出来るような企画を引き続き企画していきますので、皆さまのご参加お待ちしております。

アンケートより

- 興味のある内容だったので、とても為になった。自己紹介の際に、聞きたい事などを先にヒヤリングしたのも良かった。人によっては言い出せないままに会が終わってしまう場合もあると思うので。
- 種苗店の言うとおりに漫然と使っていた緑肥の事を聞く機会があり、良かった。
- 雪印種苗さんの話、久木田さんの緑肥活用法、どちらも、聞き応えありました。

井上氏

久木田氏

第16回オーガニックフェスタかごしま開催決定！

いよいよ16年目に突入！

オーガニックフェスタかごしま2023

ORGANIC FESTA
オーガニックフェスタかごしま

11月25日(土) 10:00～16:00
26日(日) 10:00～15:00

ウォーターフロントパーク
（ドルフィンポート跡地前広場）

1日あたり
約**100店舗**が
大集合！

年に一度の、鹿児島発のオーガニックフェスタ！
16年目の今年は、
次の15年を続けるための新たなステップ♪
みんなでつくる、みんなで学ぶ、オーガニックフェスタ。
オーガニックって何？っていう人も、
オーガニックをもっと知りたい人も、

誰でも気軽に参加できる、
それがオーガニックフェスタかごしま。

有機農業の未来に向けて語る

金子美登氏・大和田世志人氏を偲んで

2023年3月30日、昨年急逝された大和田世志人さん（当協会常務理事・全国有機農業推進協議会第２代理事長)と金子美登さん(同協議会初代理事長)を偲ぶ会が東京都で開催されました。当協会からは田代理事長、園山常務理事、古市事務局長の３名が参加しました。

この会は、姶良市出身で前農林水産事務次官である枝元真徹さんらが呼びかけ人となり、全国有機農業推進協議会が主催しました。参加者は約120名でした。

生前のお二人と親交の深かった方々が思い出を交えながら、有機農業の発展に寄与した功績を讃えました。大和田世志人さんの次女の清香さんは「次の世代につないでいくために石を投げ、全力で戦いながら死んでいった」と故人の生き様について話され、印象的でした。

多くの方々が逝去されたことを惜しむ一方で、人生をかけて有機農業をけん引してきたお二人の意思を引き継いで有機農業の発展に貢献したいと決意表明される方もたくさんおられました。最後は有機農業の明るい未来を誓い合って終了しました。

第２回オーガニック学校給食フォーラム報告

2023年2月20日に第2回オーガニック学校給食フォーラム（主催：学校給食をオーガニックに！フォーラム実行委員会）がオンラインであった。昨年の3月に行われた第１回に続き２回目となる。今回は第１回の開催後に「有機農産物の供給量や流通、価格」「担当者の異動による取り組みが後退」「調理場における環境配慮」などの課題をどのように解決したらよいのか、事例紹介を交えながら会が催された。参加者のひとりとしてこのフォーラムにオンライン参加したが、そのときに感じたことをかいつまんで紹介していきたい。

最初に共催である全国有機農業推進協議会理事長の下山久信氏（さんぶ野菜ネットワーク理事）から挨拶があり、「学校給食をめぐる状況が昨年に比べて非常に良くなっている」と話す。その理由としては各地域自治体においての首長選挙などで子どもたちへの安心で安全な給食を提供することが争点になっていることが挙げられた。この流れを全国にもっと広めたい」と話す下山氏の願いが届いたのか、4月上旬現在、国会でも“異次元の少子化対策”の１つに給食費無償化が挙げられている。これも追い風になると考えたい。

4時間に及ぶこのフォーラムは４部構成になっていた。その中で先に挙げた「担当者の異動による取り組みが後退しないように、食材選定基準を設けることが大切だ」という話が第２部であった。

『未来の給食 成田』の藤晶子氏によれば、千葉県成田市では食材選定基準を設けるためにまず成田市内の給食の状況を調べ始め、独自に基準案を作成した。また給食センターを訪れセンター長や栄養教諭との話し合いを持ち、現実的で実現可能な基準案かどうかの聞き取りを行い、基準案の練り直しを行った。そして修正を加えた食材選定基準案を教育長に提出するところまでこぎつけた。また市議会においてもオーガニック給食の実現にむけての一般質問を何度と行い、とても前向きな答弁を頂けるようになったと藤氏は話す。「行政と敵対せずに一緒に前身する」ことを大切にしている未来の給食 成田のこの活動は他地域でもできることではないだろうか。

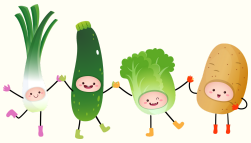
第3部では「食材・食育・環境」の見える化リストについて考えた。この見える化リストはフランスのオーガニック認証機関Ecocertがつくったオーガニック給食の認証制度を参考にして、オーガニック給食においての食材・食育・環境の基準を設けている。食材については上記の食材選定基準と同じようなところがあるが、このリストには食育と環境のことにも言及している。それは、「安全な環境あってこその安全な食」「今、子どもたちが食べているものが身体を作り10年20年先の健康をつくる」という考えに基づいたものだ。“子どもたちが生きる力を育み、健全な心身の成長を促す”、“食を通して命をいただくことに対する感謝の心を育む”、“体験を通して学ぶ”。これらは食育基本法にも書かれており、このリスト化にはより詳しくかみ砕いて書かれている。自分たちが生きている根源となるものについて知る、というのはある意味ではどんな勉強を差し置いてでも一番最初に学ぶべきではないかと私は考える。

環境においては、給食センターなどで出るゴミやそこで使われる洗剤、食器、調理器具、はたまた施設での水や電気などにおいて省エネ対策などについても書かれていた。流石、環境意識が高いフランスの基準である。「有機のものであれば大丈夫」というところで止まっていてはいけない、日本も環境に対する意識をもっともっと高めていかなければならない、未来の子どもたちのためにも。

さて、昨年から鹿児島でも「オーガニック給食をすすめる会」が立ち上がり、不定期ではあるが開催されている。運営メンバーは当協会の理事が複数関わっており、理事の外部活動として位置づけられている。この会では各地域それぞれのオーガニック給食に向けた活動報告や、先進事例の勉強、その他講師を招いて講話してもらうこともある。報告によれば県内各地でオーガニック給食の動きがあり、自治体全体としてそれを後押しする例もあれば、一農家が給食用に長年地道に野菜を提供している例もある。市民団体が立ち上がり、近隣の生産者回りを行い、行政や議員との話し合いを持ち、実現に向けて取り組もうとしている地域もある。県の方でも１年間に２回ほど給食に使われている有機食材の使用状況の調査も各給食提供施設に向けて始めており、各自治体行政やセンター職員の意識も少しは高まるのではないだろうか。

オーガニック給食が広まることで子どもたちの心身ともに健康に育っていくことが注目されがちだが、集中力があがり子どもたちに落ち着きがみられ、学力が向上すると言われる。また自治体としてオーガニック給食を薦め実現することでその自治体に移住してくる子育て世代が増え、過疎化したまちに子どもたちの声が戻ってくる。人口が増え、人もモノも域内循環が高まれば経済も活性化し、有機農業を志す新規就農者が販売先に困ることも少なくなるだろう。そして山、川、海、森、土の生物多様性が守られ、棲み処を追われ行き場をなくした魚や動物たちもきっと喜ぶはずだ。そして、みらいのこどもたちにきっと明るい未来を残せる。ずっと青いままの地球を。

理事　鶴田修市



認証日：2006/3/20　認証№加工23
2007/3/24　認証№　115
南九州市知覧町西元11713

有限会社　塗木製茶工場

Q1　何を生産されていますか？

南九州市(主に知覧町・頴娃町)において,有機茶の栽培・製造・販売を行っています。
認証品目：煎茶、紅茶、烏龍茶、碾茶

Q2　こだわりなどありますか？

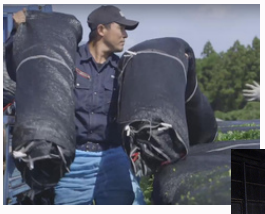
系列農家を含め、全茶園で有機栽培を実施しています。
全茶園で、自社製造の有機ボカシ肥を使用しており、茶園の状況に合わせた肥料設計を行い、地域内の農産廃棄物などを原料の一部に使用することで、資源循環型農業を行っています。

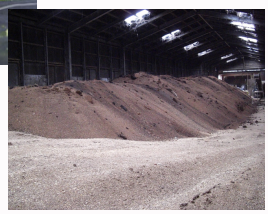
Q3　有機農業協会に望むこと、JASマークへの思いなど。

多数の一般消費者において、有機への正しい理解が浸透していないと感じることがある。
JASマークがあることで、生産者はアピールし易く、消費者にとっては「有機」だと判り易くなっている反面、どういった基準・物が「有機」になるのかを知る機会を逃していることも多くあるのではないだろうか。
だからこそ、生産者の我々も含め、より一層の情報発信を行っていきたいし、協会にも期待したい。

Q4　コロナ禍で影響がありましたか？

人や物の動きが鈍くなったことで、市場価格の下落などは顕著だった。(特にコロナ禍初年度)
在宅が進んだ時期においては、在宅需要の伸びも多少はあったが制限緩和での、在宅需要の揺り戻しがどの程度になるのか懸念材料。





Q5　これからの目標や夢は？

より高品質な安心安全で美味しいお茶作りを追い求めつつ地域における有機栽培の拡大の一助となるように頑張っていきたい。
また、各製茶メーカーの皆様などとも協力しながら、新商品の開発や販路拡大を行っていきたい。

特定非営利活動法人鹿児島県有機農業協会（koaa）

認証業務部からのお知らせ

2023年3月31日

当協会認証事業者、会員限定!!
koaa版「評価済み資材リスト」公表のお知らせ

現在、農林水産省のホームページに、一般社団法人有機JAS資材評価協議会や登録認証機関が有機JASで使用できる資材として評価した資材リストが一元的に公表されています。ここに掲載されている資材は、資材証明書を入手することなく使用することができます。

当協会でも、生産者のみなさまが個々に資材証明書を入手し確認する手間を軽減するため、当協会が資材メーカーや販売店のみなさまから直接資材証明書を入手し、評価し、公表するという業務を進めています。

この度その第一弾として、評価が終わった資材を一部公表しました。ただし、当面は当協会の認証事業者、会員のみなさま限定での公表とします。

確認する手順は以下のとおりです。

1、以下のアドレスにアクセスする。

https://koaa.or.jp/wp-content/uploads/2023/02/当協会評価済み資材リスト.pdf

2、「パスワードを入力してください」というボックスが表示される。
パスワード: koaajas (すべて小文字)を入力し、「ファイルを開く」ボタンまたは「enterキー」を押す。
koaa版「評価済み資材リスト」が開く。

3、その他、以下ののQRコードを読み取り、スマートフォンやタブレットで開くことも可能。この場合もパスワードを求められるので上記と同じパスワードを入力。

koaa版「評価済み資材リスト」を掲載しているホームページのQRコード

パスワードは定期的に変更する予定です。その際は事前にお知らせします。

このパスワードは、当協会の認証事業者、会員のみなさま以外の方には伝えないでください。ホームページを見る環境がない、スマートフォンやタブレットを使用していないという方には別な方法で提示します。恐れ入りますが事務局までご連絡ください。

これ以外に、資材の評価は終わっているが、資材メーカーや販売店のみなさまのご希望によりあえて公表しない資材もございます。このうち以下の資材は、本誌面にて今回限り掲載します。

資材名:ボカシ工房　製造者:合同会社さかもと

初回登録日:2022年10月27日　有効期限:2025年12月31日

これ以外にこの誌面でもホームページでも公表しない資材もあります。これらの資材については、新たに使用する旨の届出があった際や資材証明書更新のタイミング等で個別にお伝えします。

評価済み資材が新たに追加されたり、変更されたりした場合は随時お知らせします。

①ホームページに公表したkoaa版「評価済み資材リスト」、②この誌面に掲載した資材、③公表はしないが評価済みの資材は、資材証明書を入手することなく使用することができます。ただし、使用する前に「変更届」と「資材リストの修正版」を提出し、判定会を経た後に使用するという流れは厳守してください。

現状、実地調査予定月の2ヶ月前に確認調査申告書の様式を送信する際に「資材リスト」を添付しています。今後はこの「資材リスト」に「評価済みであり資材証明書の入手は不要である」旨を表示できるようにデータベース等を準備していく予定です。その仕組みが完成するまでの間は別な何らかの形でお伝えするようにします。ご不便をおかけしますがご容赦ください。

評価が終わった資材はまだほんの少しですが、これから少しずつ増やしていきたいと考えています。みなさまも資材メーカーや販売店のみなさまにこのような仕組みがあることをお伝えいただき、協力を呼び掛けていただけると幸いです。

有機JAS検査経費の補助が受けられます。

前年度は、令和3年度補正予算において有機JAS認証支援に向けたモデル実証事業が実施され、補助金が交付されました。

今年度は、令和4年度補正予算において有機JASの普及対策事業が実施されることになりました。

新規申請予定の事業、継続の認証事業者、いずれも対象!!

最大半額
新規認証事業上限20万円まで
継続認証事業上限15万円まで

前年度のモデル実証事業の補助を受けなかった事業者のみなさんの応募要件は以下の6つです。

1、有機JAS認証を取得している、または新規認証取得予定であること。
2、有機品の売り先を確保している、または「有機農産物の生産行程管理者」/「有機飼料の生産行程管理者」の認証をグループで取得(予定を含む)していること。
3、登録認証機関による有機JAS実地調査および経費の支払いは、交付決定通知受領後であること。
4、登録認証機関から判定結果通知を受取り検査経費の支払いを終わりしだい、すみやかに「実績報告書兼請求書」を提出できること。
最終提出期限は令和6年1月31日。
5、農林水産省が令和3年に公表した「有機JAS制度の運用改善策」の導入調査に協力すること。
6、地元自治体、農林水産省・農産局等から、有機認証費用補助金交付を受けていないこと。

前年度のモデル実証事業の補助を受けた事業者のみなさんは前述の1～6に加えて、7も満たす必要があります。

7、農林水産省が令和3年に公表した「有機JAS制度の運用改善策」のうち、いずれかを導入(見込みを含む)していること。

農林水産省が令和3年に公表した「有機JAS制度の運用改善策」とは以下の3つです。

1、リモートによる有機JAS実地調査
2、グループ認証におけるほ場のサンプリング調査の導入
3、有機JAS適合資材を農林水産省のホームページに公表

要件を満たす方はふるってご応募ください。詳細は当協会のホームページに掲載したパンフレットを参照ください。

補助事業パンフレット_0320_2.pdf (koaa.or.jp)

スマートフォンやタブレットの場合はこのQRコードを読み取ってください♪

この補助事業の窓口である一般社団法人日本農林規格協会(JAS協会)のホームページには2023年4月4日にパンフレットが掲載されるそうです。より詳しい情報はそちらをご参照ください。

公募開始は2023年4月11日(火)です。申請額が予算額を超えた時点で受付終了となるようです。早めにお申込みください。

申請はお早めに♪

認証業務部からのお知らせ

検査時期の見直しをしてみませんか？

前ページでご紹介した補助事業に関連し、応募要件4に記載したとおり、判定結果通知を受取り検査経費の支払いを終わりしだい、すみやかに「実績報告書兼請求書」を提出する最終提出期限は令和6年1月31日。逆算すると2023年12月までに実地調査および判定を終了しておく必要があります。よって1月～3月に実地調査をされる認証事業者のみなさまはこの補助事業の対象外となってしまいます。

これを回避する対策として、年次調査の時期を前倒しすることを提案いたします。現状1月～3月はお茶の認証事業者さんを中心に検査が非常に立て込む時期でもあります。この偏りを解消することもできると考えています。

この機会に年次調査時期を早め、補助事業対象者となり、応募することをぜひご検討ください。

検査時期を前倒ししたいという方は早めに事務局までご連絡ください。

有機JAS講習会について

5月23日(火)、24日(水)にかごしま環境未来館にて、有機ＪＡＳ講習会を開催いたします。

有機ＪＡＳ講習会は、新規事業者や既存事業者の初めて受講する方向けとなります。内容としましては、2023年より外国格付表示業者の認証に必要な内容も含んでおります。新しく責任者や担当者になる予定の方やこれから有機ＪＡＳの認証を取得しようと考えられている方がおられましたら、ぜひお声がけいただきますよう、よろしくお願いいたします。

※JAS講習会の詳細については、別紙をご参照ください。

格付実績報告書の提出などについて

2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)に格付及び格付表示をした数量を格付管理記録に基づいて集計し、格付実績報告書にまとめて、6月30日(金曜日)までに提出いただきますようお願いいたします。

2022年度に新規で認証を取得した場合は、認証日から2023年3月31日までの実績報告を提出ください。また格付実績がなかった場合は格付実績報告書に「実績なし」と記入して提出してください。提出方法は協会までメールやＦＡＸでお願いします。データでの報告書の様式が必要な方は、協会までお問い合わせください。

併せて、有機農産物の生産行程管理者の皆様には、2023年3月31日時点における圃場面積をお知らせいただきますよう、お願いしております。

申請圃場において、田んぼや畑の場合は作付品目で判断していただき、地目が「田」となっている場合でも、野菜を栽培している場合は、「普通畑」となりますのでご注意ください。そのほか分からないことがありましたら、協会までご連絡ください。

※詳細は別紙の書類をご参照ください。

協会からのお知らせ

重要！

第24回総会のご案内

会場：かごしま環境未来館

日時：5月20日(土)13:30～14:30

※同封の出欠票にご記入のうえ、必ずメール、faxなどでご連絡ください。

右記QRコードからでもOK！

出欠入力
QRコード